

## 実習の成果(できたこと、得たもの等)

### 授業・教科

得意不得意関係なく、生徒全員が積極的に参加できるよう練習問題を基本的なものから始め、だんだんと慣れるようにすることが重要であることを学んだ。声を出す活動を行うことによって、生徒一人ひとりが授業開始直後よりも主体的に学ぼうとする姿勢が高まり、授業の活気も上がるように感じた。またペアワークやグループワークを行うことによって、自分の回答に自信を持ち発表しようとする生徒が増えるということも授業を進めていくうえで感じ、大切であることが分かった。この活動を行うことによって、活発に意見交換ができ、生徒の視野を広げることもできると実感した。

Class room English を心がけることもできた。基本的に授業内の指示を英語で話すことによって、生徒が英語を使って表現しようとする姿勢を生み出すことができた。また事前に生徒の様々な反応を考えておくことによって、違った方法で説明を行ったり、質問をされても落ち着いて対応することができた。

授業の後半には、復習を個人で行い、教師が机間巡視を行うことによって理解の定着を図る時間を設けることができた。これは、担当教諭が毎回行っていることであるが、授業の最後を落ち着いた雰囲気で行うことによって、生徒も集中した状態で学びを終えることができる。

### 学級経営

生徒は毎日簡単な日記(生活ノート)を提出し、そこには学校や放課後の楽しかった出来事や塾・部活動での出来事が記されていた。私は毎日それを点検させていただいていたが、一人ひとりの思いや言葉を丁寧に受け止め返答をすることの難しさを感じる反面、このノートが生徒とのコミュニケーションツールの一つであり生徒理解を深める重要なものであると感じることもできた。毎日クラス全員と直接話すことは不可能な時もあるが、文面でコミュニケーションを取ることで生徒の様子や個性を理解することに役立てることができた。

また、朝と帰りの ST も行わせていただいた。最初は、当日や次の日の予定・流れを説明するものであると考えていたが、実際に前に立つと生徒の様子を観察することもできる貴重な時間であると感じることができた。このように一つ一つの行動には、しっかりと意味があるということを改めて実感することができた。

### 学校経営

学校全体であいさつが推進されており、毎朝(7:55~8:15)校門の付近に立ちあいさつ活動を行った。私の担当学年が2年生だったこともあり、他学年とは関わる機会が少なかったのだが朝のあいさつ活動や下校指導を行うことによって他学年・他クラスの生徒と話す機会を多く設けることができた。「車に気を付けてね」や「傘をささないで濡れるよ」等、その場のたわいもない会話が生徒に

とって教師にとっても重要であることが分かった。生徒が日記に「朝、先生が一言話しかけてくれて嬉しかったです。」と書いてくれたこともあり、朝や放課後に教師が生徒の顔を見て声をかけたり挨拶をすることは生徒の交通安全を見守るだけでなく、生徒と心を通わせるきっかけの一つになっていることに気づくことができた。

また、古紙回収や教室内の改装を行う機会もあり、生徒の頃は見えていなかった先生方の職務の広さを知ることができた。力仕事もたくさんあったため、教師は体力が必要であると感じた。

## 生徒対応

教室や廊下で生徒と話すことで、授業中には気づくことのできなかつた個性や内面を理解することができ、休み時間や昼休みはとても重要な時間であるということを感じることができた。最近の出来事話してくれる子や塾の宿題を質問してくる子、授業で気になったことを質問してくれる子など様々で、生徒と関わる時間を自ら作りに行くことで新たな発見ができるということを学んだ。

また、学年集会で新たなことに挑戦することの大切さや好きなことを継続できることのありがたさをこれまでの経歴を通して話した際に、「私は今〇〇を頑張っています!」等、伝えに来てくれたことから、教師が自己開示を行うことによって生徒も親近感を持ち、積極的に関わろうとする様子が見られた。

## 実習生活全般

私自身が中学生だった時と比べて、学校のオンライン化等変化しているところもあり、驚く場面も多々あった。学級内の黒板も電子黒板と半々であり、word や power point を反映して授業を行っていた。宿題プリントを映し、電子黒板に書き込んで答え合わせを行うことや、タイマーを表示すること、リスニングの音声を流すなど使いこなすことで授業もスムーズになるため、放課後に担当教諭にお時間をいただき電子黒板とコンピューターの使い方を勉強させていただいた。

また毎回の授業スライドに加えて、授業内プリントや宿題プリントを作成し、生徒が学びなおしができるよう心がけた。スライドやプリントには文字ばかりではなく、イラストも入れて生徒が学びたいと思えるよう視覚的な情報もいれるよう気を配った。

批評授業では教科の授業に加えて道徳科の授業も行わせていただいた。生徒の意見に対して問い返しを行うことや考えを共有すること等、臨機応変に対応することの難しさを感じた反面、現場でしか学ぶことができない中学生の考えを理解することができた。

## 実習ででてきた課題(できなかつたこと等)

### 授業・教科

道徳科の授業を通して難しいと感じた問い返しは、授業開始直後はなかなかできなかつた。批評授業ということで緊張もあり上手く対応できなかつたが、慣れていくと発問への生徒の反応に対してさらに問いかけを重ね、内容をより深掘ることができた。先生方からのご講評からも授業開始直後

の問い返しについて指摘があったため、生徒の思いがけない回答にもすぐに対応できる力をつける必要性を感じることができた。また、授業プリントでは設問の文にミスをしてしまうことがあったため、コンピューターで確認するだけでなく、一部印刷して改めて確認する等何度も確認を行うことも大切だと実感した。

## 学級経営

生活ノートの点検をお昼までに済ませ生徒に返却するため、授業時間の合間に行っていたが初めの頃は時間が多くかかってしまい午前中は授業準備とノート点検で終わってしまっていた。時間が経つうちに短時間でコメントを書けるようになったが、最終週では他の実習生の批評授業見学に行く等でノートを見る時間がなくシールを貼って終えてしまう日があった。その日に関しては空き時間がなかったため全員に返答ができなかったことからシールを貼るという選択をとったが、折角書いてくれた生徒のためにもコメントを返したかったという思いが今も残っている。

## 学校経営

授業を行う中で、地域のサポーターの方に授業を見てもらうことが多くあった。教室内で子どもを見守る目が多いことは、勉強面のサポートだけでなく子ども達に安心感を与えることができると考えた。しかし、授業前後にその方々とお話させていただく機会をあまり設けることができなかったため、授業のアドバイスはもちろん、子どもを取りまく教育や環境についても第三者である地域の方と話をする機会があればより良い授業づくりに生かせたと感じた。

## 部活

今回の実習では1つの部活動に集中して参加することはなかったが、運動部が廊下でトレーニングをしている姿を見たり、放送部が毎日発声練習をしている姿等、様々な部活動の内容を見ることができた。しかし、1つの部活動に集中して共に活動できていれば、より詳しく把握できただろうと振り返って感じた。

## 生徒対応

今回の実習では、多くの生徒と交流を図ることができた。クラスの生徒とはほとんど全員とコミュニケーションを図り、ノートの内容の話や趣味の話をすることができた。しかし、積極的に話しかけてくれる子との会話時間が必然的に長くなってしまい、全員に平等な時間を確保することができなかった。また、他クラスの生徒は、休み時間や授業前後に会話することも多くあったが、授業外で関わりを持つことができなかった生徒もいるため、一人ひとりとコミュニケーションを取れたら尚良かったと感じる。

## 実習生活全般

今回の実習では後悔することのないように、何事にも全力で取り組むことができた。しかし、生徒全員としっかりと関わることはできなかったことは心残りである。実習最終日には、全クラスから寄せ

書きをもらったが、その中には「授業が楽しかったです。」や「わかりやすかったです。」というような授業内容のことも多く書かれていたが、「もっと話したかったです。」と書いてくれている子もいた。担当クラス以外は、授業外でなかなか全員と話す機会がなかったため、もう少し一人ひとりと関わりたかったと感じている。

### 実習を行った感想

最初は3週間の実習は長いと感じていた。しかし、実際に始まってみると指導案・プリント作成等の授業準備や生徒のノート点検、あいさつ活動、下校指導のようにすべきことが多く時間が足りないと感じた。指導案やプリント作成の際は、生徒が楽しんで授業に参加できるようにするにはどのようにしたらよいかを重点的に考えた。英語という言語教科は、興味を持たせることがまず大切であると感じたため、文法を学んだあとには必ず実践を行うようにしていた。実践テーマも実際に行った校外学習の内容を取り入れることや、不定詞を使って「〇〇する時間が欲しい」といった具体的に生徒が答えやすいものを設定した。

また、私は今回の実習を通して人とのコミュニケーションの大切さを改めて実感した。実際に話してみないと生徒の内面や考え方を理解することはできないため、積極的に関わっていくことが必要であると思った。コミュニケーション方法は話すだけでなく、日記のように文面でもしっかりと伝わるということも学んだ。提出する生活ノートに絵を毎日描いてきてくれる生徒がいた。その絵に対してコメントを書くことで「〇〇というアニメに興味ありますか?」や「今日は〇〇を書きました!」といった文をだんだん書いてくれるようになり、必然的に会話にもつながるようになった。そのためコミュニケーションの手段は様々であり、相手にとって何が一番良いのか考えて行うことの重要性も感じる事ができた。

### 今後に向けて

今回の実習で人とのコミュニケーションの大切さや時間配分をしっかりと行って、何事にも全力で取り組むことの大切さを学ぶことができた。これは、教師という職業だけでなくこれからの人生において重要なことであると考えため、しっかりと身に着け、行動に移せるよう努力していきたいと考える。また、自分が発した言葉が周りに影響を与えるということも実感することができた。そのため、思いやりのある言葉等表現方法に気を付け、一言一言に責任を持ち過ごしていきたいと思う。そして、この実習で子ども達の考えや悩み、期待や不安を知ることができたため、彼らに今後出会えた時にアドバイスができるよう自分自身の経験値も今後の学生生活を通して高めていきたいと考える。